

令和 7 年 2 月 17 日

国立がん研究センター理事長 殿
国立がん研究センター中央病院長 殿
国立がん研究センター中央病院

医療安全外部監査委員会
委員長 山 本 修 一

令和 6 年度第 2 回医療安全外部監査委員会 監査結果報告書

1. 日 時 : 令和 6 年 12 月 26 日(火) 10 時 00 分～12 時 00 分 第 1 会議室

2. 監査委員

独立行政法人地域医療機能推進機構	山本 修一	理事長
千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部	相馬 孝博	副院長／部長
順天堂大学医学部 心臓血管外科学・病院管理学	川崎 志保理	客員准教授(WEB 参加)
さわやか法律事務所	田島 優子	弁護士(書面評価のみ)
一般社団法人 CSR プロジェクト	桜井 なおみ	代表理事

3. 令和 6 年度第 1 回医療安全外部監査委員会監査結果に対する当院の対応

- 1) 年度毎に定められている管理目標については、根拠に基づく目標値を設定して取り組みを行うことで目標値に近づいている事項がある一方で、数年間変化がない事項もみられる。変化がない事項については、引き続きモニタリングを継続するという方針でお願いしたい。また、職員に対し目標値を定めた根拠の説明をすることで、職員に理解されやすく、職員からの更なる協力が得られやすいために検討いただきたい。

<対応>

医療安全管理指標や年度管理目標については、年度内のデータが揃った時点で経年評価を行い、次年度以降も継続するか検討している。数年間変化のないモニタリング項目については、計画内容を見直すなど改善活動に取り組み、指摘内容をふまえ、医療安全管理指標や年度管理目標とは別に、継続的にモニタリングし評価していく。また、職員へ年度管理目標を提示する際は、目標値を定めた根拠とともに周知することにした。(委員会了承)

- 2) 患者の病状急変は命に関わるため、採血時に何を測定すべきか判断に迷わないよう、「急変時採血セット」の作成をご検討いただきたい。

<対応>

「急変時採血セット」を麻酔・集中治療科、臨床検査科に相談し、急変時必須の採血項目を決定した。医療情報部と連携し、1 月 15 日から急変時採血セットとして一括オーダーが可能となる。(委員会了承)

4. 令和6年度第2回医療安全外部監査委員会 監査結果

- 1) 電子カルテの同時展開については大きな医療事故に繋がり兼ねないため、病院として安全対策の検討をお願いします。
- 2) 薬剤の疑義照会については、誤ったオーダーによる放射線検査防止の取り組みと同様に、①医師へのフィードバック、②オーダー変更があった場合のレベル 0 報告といった取り組みの推進をご検討いただきたい。
- 3) 手指衛生遵守率の評価方法が職種によって異なることは承知しているが、医師・看護師以外の職種の遵守状況を再確認し、更なる遵守率上昇の取り組みをご検討いただきたい。
- 4) 未承認や適応外で体内留置する医療機器についての審査方法をご検討いただき、「高難度新規医療技術等導入フロー」に明記することで、今後の申請に備えていただきたい。

5. 総評

第1回委員会の指摘事項について真摯に対応されており、改善された取り組みを確認した。また、今回、『患者対応の基本～病院職員が安心して患者対応できるように～』を確認したが、患者対応や暴力迷惑行為の対応手順が十分に定められており、大いに役立つものになると評価できる。患者対応についてはトラブルに発展するとその対応に時間を取られることになるため、職員が内容を理解し丁寧な対応を実践することが望ましい。

医療安全管理部が病院全体の医療安全活動を先導しているのはもちろんのこと、職種を問わず、職員が医療安全の活動に協力していることが素晴らしい。引き続き、目標達成に向かって医療安全の取り組みにご尽力いただきたい。

以 上